

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立ててく

国立第七小学校 平成25年9月6日 NO.37



オー君 「モンタ博士。この前、高尾山の近くの山に行ったのですが、そこで、山の道のあちこちに、に上の写真（しゃしん）のように、枝（えだ）をつけたドングリがまだ緑（みどり）のままたくさん落（お）ちていたんです。ぼくは、どうしてかな、なんでこんなところに落ちているのかなと不思議（ふしぎ）に思って、写真をとっておいたんです。モンタ博士！ぼく、とってもおどろいたんです。どうしてなのかな。不思議（ふしぎ）ですね。」

モンタ博士「ほおー。それはえらいね。何気（なにげ）なく見ているは気がつかないことでも、よく見ると、あちこちに不思議（ふしぎ）なことはいっぱいあるんだね。オー君はとってもすばらしいものを見つけたんだよ。」

花ちゃん 「それにしても、オー君はえらいわ。写真をとっておくなんてさすがね。」

モンタ博士「ところで、何か気がついたことはないかな。」

オー君 「このコナラは枝がおれていますね。雨や風で、落ちてしまったのかな。でも、

台風（たいふう）とか来なかったし・・・。」

花ちゃん 「ひょっとして、だれかが落とした？のかしら。」

オー君 「鳥とかが、落としたのかな？わかんないな。」

モンタ博士「これはね、このコナラの枝がおれてたのは、虫の仕業（しわざ）なんだよ。」

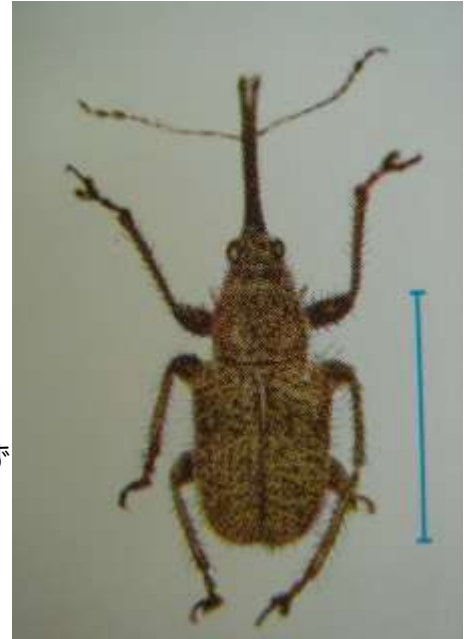
花ちゃん 「え！虫の仕業？そんな虫がいるんですか。何という虫ですか。」

モンタ博士「それはね、右の図のハイロチョッキリというチョッキリ虫の仲間（なかま）さ。」

オー君 「あ！図鑑（ずかん）で見たことあるぞ。」

花ちゃん 「モンタ博士、犯人（はんにん）はわかったけど、何のために枝（えだ）を落とすのですか。謎（なぞ）は深まるばかりですね。」

モンタ博士「実はね、この落ちた枝には、必（かなら）ずドングリがついているだろう。それが謎を解（と）くカギというわけだね。」



ハイロチョッキリ(オトシズミ科)

オー君 「あ！そうだ。おいら思い出したぞ。つまりドングリにあなを開けて、そこに卵（たまご）をうむんだ。そして、幼虫がドングリの中身（なかみ）を食（た）べて大きくなるんだ。」

花ちゃん 「でも、ドングリの中身を食べるだけなら、木の上でもいいわけなのに。」

オー君 「そうだよ。そうだよ。ドングリの実にあなをあけるのはわかったけど、なぜ、枝を下に落とさなくちゃいけないのかな。」

花ちゃん 「今、ドングリの実にあなを開けるといったでしょ。それって、どういうことですか。あなを開けるのに、かたいキリなんかどこにあるの。」

オー君 「そうだね。それから、枝（えだ）を落とすといったけど、どうやって落とすんだ。まさか、虫がハサミをもっているの。」

モンタ博士「そこがおもしろいところなんだね。不思議なところなんだね。でも、この続（つづ）きは、また明日にしよう。」

花ちゃん 「明日は土曜日。お休みでーす。では、月曜日を楽しみにしていまーす。」